

紀行

高山不動尊の古い参道を行く

四寸道から関八州見晴台

埼玉県

近藤 雅幸

四寸道。古くから名刹、高山不動尊に参拝する道として多くの人に歩かれてきた参道である。道中にあつた大岩の隙間が四寸（約12センチ）あつたのが名の由来だという。

この道は大満にある下ヶ戸薬師堂の裏から、おおむね尾根をたどつて高山不動尊奥の院に向かい、そこから少し下つて高山不動尊に向かう。廃道になつて久しいが、最近再びハイキングコースとして人気が出てきたと聞く。おりしも、ちょうどツツジの季節。奥の院から高山不動尊に下る道がツツジのトンネルになつてはいるはずである。

東武線越生駅からバスに乗り、火の見下バス停で降りると、辺りにはのどかな山村風景が広がっている。

橋を渡つて、戻るように越辺川の左岸の道路を行く。ようやく濃くなつてきた緑を見ながら龍穩寺の方向を示す道標に従つて家並みと畑がモザイクとなつた中を抜けると、やがて道は峠を越えて龍ヶ谷に抜ける間道に入る。

登りが少しばかりきつくなり、杉林に入ると、いかにも峠といった風情を漂わせる横吹峠である。ここから左に折れて高山不動奥の院のある関八州見晴台から奥武蔵主稜線から分かれて北東に延びる尾根に入る。四寸道である。

いかにも昔の参道らしく、道は大きく溝状に掘れて、かえて歩きにくいくらいである。四寸道は尾根上の三角点峰、越生駒ヶ岳の左を巻くように高度を上げていく。

再び尾根上に出た所で、尾根の右手に越生駒ヶ岳山頂に続く踏み跡が見え



関八州見晴台から東京方面を望む

四寸道一関八州見晴台付近略図



たので立ち寄ったが、三角点標石があるだけで、花も展望もなかった。越生駒ヶ岳を往復した後は、再び四寸道に行く。さすが昔の参道、傾斜に対してうまく道がつけてあって、とても歩きやすい。猿岩林道に出るので、それを少し右に行くと再び稜線をたどる道が左に上がっている。

529 峰の標高点は左を巻き、さらに高さを上げていく。路傍にはハンシヨウツル、コゴメウツギ、マルバウツギ、ガクウツギなどの花が季節を感じさせてくれる。

やがて道はもう一度猿岩林道に飛び出る。そこからは林道を左に向かって少しばかり歩くことになる。林道歩きを10分ほどで、右手の森の中に山道が見える。

ここからヒノキ林の中、つづら折りの急登を、ひとしきり何とかそれをこなすと、登りあげた所は奥武蔵主稜線である。それを右に向かうと明るい緑に覆われた森の中にヤマツツジの花が現れてくる。ここまでくると関八州見



四寸道

晴台に近い。

間もなく春の明るさにあふれた頂上にとどり着いた。遠くがもやっていていつもは見えないはずのスカイツリー、筑波山、両神山は、かすみがかかってもよく見えないが、比較的近い長沢背稜や武甲山、伊豆ヶ岳は手に取るよう



高山不動奥の院

に眺められる。ここで昼食を取り、ゆつくりと春の色彩を楽しむことにする。休んだ後は高山不動尊に下る道を行く。ツツジのトンネルのはずだったがミツバツツジはすっかり終わり、ヤマツツジも咲き残りが、ちらほらとあるだけ。期待は裏切られたが、今年（平

成28年）は、どこに行っても例年より花が2週間ほど早いので、あきらめるしかない。

高山不動尊で、お不動様を参拝し、八徳・志田方面への登山道に入る。八徳に向かう道を左に分け、さらに下ると道は集落に出る。ここで志田方面への道から分かれ、右に尾根を絡んでいく道に入り、大窪へ下った。

明るい日差しの中、大窪集落の高みにある神社の木陰で休んでいると、「春」の真ただただ中にいることがひしひしと感じられる。さらに沢と道路を渡って大窪峠を越えると視界が広がり、眼下には西武秩父線が走っているのが見えてくる。

休暇村奥武蔵の前に下ったら、西吾野駅はそこから20分ほど。駅下の売店で買った、缶ビールのうまさはこちら格別だった。

（16年5月14日(土)歩く）

● コースタイム

越生駅（バス20分）火の見下—20分—横吹峠—1時間50分—関八州見晴台—

20分—高山不動尊—1時間30分—西吾野駅
〔計4時間〕

● 費用

池袋⇨越生	東武	720円
越生駅⇨火の見下	バス	340円
西吾野⇨池袋	西武	630円

● 問い合わせ先

川越観光バス 0493-56-2001

● 地図

越生 正丸峠（2万5千）
東京（20万）

=新ハイキング選書 第34巻=

首都圏で緑求めて、

さあ、ハイキング!

都心から電車で1時間以内
最長4時間の軽ハイキング60コース
A5判・259頁 本体1,600円+税

新ハイキング社

巻末の払込票を利用してお申し込みください。
送料当社負担にてお手元にお送りします。